

訪問看護



No.51

訪問看護ステーション
☎ 32-2416

ステーション便り

少子超高齢化における訪問看護の使命は「持病の重症化の予防」と「在宅看取り」です。今回は「持病の重症化の予防」についてお知らせしました。今回は、もう一つの使命、「在宅看取り」についてお伝えします。

「看取り」という言葉にどんなイメージをお持ちですか

看取りとはもともと、「病人のそばにいて世話をする」、「死期まで見守る」、「看病する」という、患者を介護する行為そのものを表す言葉でした。最近では、人生の最期(臨死期)における看取りを単に「看取り」と言い表すことが多くなっています。

お出かけ講座などで、地域の皆さんに看取りについて伺うと、ほとんどの方が「人生最期のその時(臨死の瞬間)を見守ること」と認識されていました。

訪問看護では、看取りを、臨死の瞬間だけではなく、前の段階も含めたプロセスとして捉え、「残された時間を、最期までどのように暮らしたいか」に寄り添います。

＝在宅看取りの必須条件＝

- 1 本人が「自宅で最期を迎えたい」という意思があること
- 2 家族が納得し、受容できていること
- 3 在宅医や訪問看護などの医療チームの体制が整うこと



訪問看護の実際

「どのように暮らしたいか」希望をうかがい、叶えられるように支えます

たとえば...

- ・息子に家業を伝授したい
- ・アトリエで画材や絵画に囲まれて過ごしたい
- ・一人暮らしでも家で過ごしたい
- ・家で母親として子どもたちのそばに居たい
- ・痛いことや苦しい治療はせずに自然に過ごしたい

24時間 365日 ご家族を支えます

ご家族の「症状が急変した時の対応が不安」という心配に対して

変化する体調に対して、今、からだの中で起こっていることを説明し、次に起こりうる症状を伝えることで「予期できる=急変ではない」と理解し、落ち着いて対応できるようになります。



体調の変化への対応

- ・苦しさや痛みなどの不快症状は主治医と連携し、少しでも穏やかに過ごせるよう努めます
- ・不安など、精神面に寄り添います



連携



ご本人を支えているご家族や親戚・サービス担当者と連絡を密に取ります。